

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500022
法人名	株式会社 お茶屋の里
事業所名	グループホーム 上の茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町二丁目8番15号
自己評価作成日	平成 24年 9月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>夏に夕涼み会を開催し、地域の人たち、家族も来てもらい、バザーや盆踊りで交流を深めている。 利用者の皆さんが「いつも笑顔で穏やかに」暮らせるように、職員も楽しく過ごせるようにしている。 ホームのみんなであいそびな所へ出掛けて行きたい。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●調査訪問時、職員は、居室で利用者の髪にブラシをかけ、身だしなみを整えてから居間にお連れしていた。又、職員は、利用者の隣の席で食事する際には、「失礼します」と、利用者へ声をかけて座っておられた。片方の耳が聞こえにくい利用者の方には、聞こえやすい方から話しかけて大きな声にならないように配慮したり、又、精神状態等もみながら声かけするように心がけておられる。お風呂上りには、脱衣所のいすの上に、新しいタオルを敷き、気持ちよく着替えができるよう配慮されている。月二回、お花屋さんからお花が届くようになっており、調査訪問時には、お花を生けるのが得意な利用者が、カーネーションやかすみ草でフラワーアレンジメントを作っておられた。居間に飾り、職員は、「きれいに生けて下さってありがとうございます」とお礼の気持ちを伝えておられた。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 上の茶屋

(ユニット名) 菖蒲

記入者(管理者)
氏名 安部 直子

評価完了日 平成 24 年 9 月 19 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「地域と交流を持ちながら楽しく暮らせるように」と地域密着型サービスとしての理念を作り、毎朝申し送りの時に唱和しており、交流を持てるように努めている。	
			(外部評価) 事業所では、「いつも笑顔で穏やかな暮らし」と理念を作成し、玄関や各ユニットに掲示しておられる。管理者は、「利用者には、家族と暮らすように安心して暮らしてほしい」と願っておられ、職員には、普段から、「利用者を自分の家族のようにケアしてほしい」と話しておられる。事業所には、地域ボランティアの方が来られており、マジックを見せてくれたり、三味線の演奏を聞かせてくれたり、利用者と一緒に童謡を歌ったり、フォークダンスを一緒に踊ったりして楽しませてくれている。利用者には、前日からボランティアの方が来てくださることをお話ししておき、当日、利用者が驚いたり、緊張せずに楽しめるよう支援されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の運動会や文化祭などに利用者と共に積極的に参加している。 昨年より夕涼み会を開催し、地域の人たちにも来ていただいているが、今年は盆踊りも初め教えに来てもらったり、当日も一緒に踊ってもらっている。	
			(外部評価) 地区の運動会や文化祭、盆踊り等、地域行事には、毎年参加されて、地域の方達と交流しておられる。昨年から、法人全体で、「夕涼み会」を開催されており、今年は夕方から行われた。公民館でお借りしたテントをボランティアの方が張ってくださったり、又、車いすを押すボランティアの方が10名ほど来てくださり、利用者の移動等に協力してくださった。地域の方は、盆踊りを教えに来てくださり、利用者も、何度も練習して、当日は、地域の方達と輪になって盆踊りを楽しまれた。管理者は、「準備の段階から地域の方達との交流が始まっており、より関係が深まった」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生や高校生の職場体験の受け入れや人材育成のための実習生の受け入れも積極的に行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、日頃の利用者の現状やサービスについて報告し、地域の方々からも情報を提供していただき、実践できるように努めている。	
			(外部評価) 会議には、ご家族や利用者をはじめ、公民館長、民生委員、連合自治会長、地区の自治会長等が参加してくださっている。毎回、事業所から現状や待機者について報告され、今後の行事予定についても伝えておられる。「地区の自治会長の交代があったことで、会議への出席が途絶えた」ことについて、連合自治会長からは、「地区の自治会長こそ出席をお願いしなくては」とアドバイスがあり、事業所から改めて案内をされて、出席していただけるようになったようだ。管理者は、今後、「利用者が普段食べている食事をメンバーにも食べていただく等して、事業所のサービスについて意見をうかがうような機会も設けていきたい」と話しておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席して下さったり、報告書をその都度持って行ってはいるが、それ以外では協力関係を築けるまでには至っていない。	
			(外部評価) 運営推進会議と夕涼み会を併せて開催された際には、地域包括支援センターの担当者も参加されて、「買い物を楽しめるフリーマーケットが良かった」と感想をいただいた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会や毎日の申し送りで、その日の様子を振り返り、身体拘束になっていないか話をしている。玄関は、内側から出られないようになっているが、利用者が外へ行こうとする時は一緒に出掛けられるように支援している。	
			(外部評価) 法人内の事業所で行方不明者があったことから、今年3月より法人内の3グループホームともに、事業所の出入口はオートロックに替えられた。内側からは、ドアに人が近づくとセンサーが反応して、ブザーが鳴ったり、光るようになっている。取り付けに当たっては、管理者がご家族、利用者へ直接経緯を説明し、理解を得られた。管理者は、現状について、「危険度は減少するが、籠の鳥のような状態かもしれない」「利用者も閉められていると感じているかもしれない」と話しておられた。居間から出られるテラスは、菜園や外に通じるようになっており、調査訪問時、利用者は、テラスに出て日向ぼっこをされていた。管理者は、職員に「オートロックに頼り切るのではなく、日頃から利用者が今、何をしたいのか考えながら、動きを把握するように」と、話しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会などでも話をしており、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度について、折に触れ職員にも話をするようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、ゆっくりと時間を取って説明をしており、起こりうるリスク、重度化などについて十分に説明し理解してもらえるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員の方に2ヶ月に一度来てもらって、利用者の相談にのってもらっている。利用者の立場に立った意見をいただき参考にしている。 (外部評価) 職員のケア上のこともあり、ご家族の了解を得て、居室のベットの位置を替えられたが、後日、ご家族から、「前の位置の方が、窓からの景色がきれいだった」と意見があり、元に戻されたこともあった。畑が広がる風景を見ながら、お話するのが利用者の楽しみとなっているようだ。窓からお墓が見える居室の利用者は、「わしをここに入れるんか」と、ご家族に言われたようで、事業所では、竹垣の目隠しを取り付けられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃より、改善点などについてアンケートを採り運営に反映させている。また、職員の話にも耳を傾けている。	
			(外部評価) 今年3月から、敷地内を禁煙にされたことをきっかけに、職員の休憩時間や休憩スペースを確保できるように改善された。管理者は、「職員の気分転換ができるようになって、ケアにも良い影響が出ている」と話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者からの報告を良く聞いており、職員個々の勤務状態も把握するように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、内外の研修を受けられるように機会を確保して、順番に参加できるように働きかけている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県の地域密着型サービス協会に入っており、相互研修などで他のグループホームとの行き来があったり、交流会などにも参加してお互いの良い所を参考にし、質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に困っている事を良く聞いて、入所に至るまでの状況もじっくり把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時から、困っていること、心配なことを良く聞いて、どのように支援したらいいか相談しながら信頼関係を築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談に来られた時の状況を確認し、その時何が必要かを相談して、入所に至るかどうか検討し必要なサービス利用を支援していくように対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者は大先輩であることを職員が常に意識し、家族のように暮らしていくうえで、お互いに支え合っているように留意している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には細かなことも報告し、情報も交換し合って、何かあればお互いに相談し合えるような関係を築くようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔から行っている散髪屋さんや病院など、そのまま続けて行けるよう努めている。教会の方なども来られている。 (外部評価) 入居前、定期的に教会に通っていた方は、入居後は教会から神父さんが来てくれて、一緒に聖書を読んだりおしゃべりして過ごされる。近くの遊歩道を散歩したり、地域の行事に出かけた際には、ご自宅の近所の方や懐かしい友人と出会うことも多く、お話されたり、職員は、事業所にも遊びに来てもらえるように声をかけておられる。秋祭りの時期になると、利用者は、太鼓台を見るのを楽しみにされており、祭り前には、太鼓台のDVDをみなで見たり、職員は、事前に利用者が疲れず安全に見物できるような場所を探しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個別に話を聞いたり、気の合う人同士で出掛けたり、利用者同士の関係が上手く行くように職員が調整している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の事業所へ移られた方でも利用者さんと一緒に遊びに行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で声を掛けて把握に努めている。困難な人は、家族や関係者から情報を得るようにしている。 (外部評価) 意向を汲み取りにくい利用者には、職員の方からレクリエーション等にお誘いして、利用者の様子を見ながら把握に努めておられる。利用者から得た情報は、これまで職員それぞれのノートに記録しておられたが、今年から、「連絡ノート」を用意し、「日常の出来事」「ご家族とのやり取り」を書き留めて、職員間で情報を共有することに取り組まれている。	入居後の生活のいろいろな場面から得た個々の情報についても、わかりやすくまとめていくよう、工夫されてはどうか。利用者の生活のこだわりや習慣、大切にしていること等、得た情報を利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けられるよう、支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用時には、ご本人や家族、関係者などから聴き取るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) お一人おひとりの一日の過ごし方を理解し、言動や動作などから感じ取り、今できることなどの把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人や家族さんとのかかわりの中で、思いや意見を聞き、必要な時は医師の意見も聞いて介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎日、夜勤職員が介護計画の支援内容について、「○×形式」でモニタリングされており、利用者個々の担当職員が取りまとめて、6ヶ月ごとに介護計画を見直しておられる。事業所では、新たに、24時間時系列の介護計画書様式を採り入れて計画を作成されており、ご家族に分かりやすいようにされていた。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者それぞれで、食事量、排泄、バイタル、日々の様子も記録し、職員間でも共有して介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族と連絡を取り、その時々々の要望や状態に応じて対応できるようにしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>公民館行事に参加したり、地域の人たちにボランティアとして来ていただいて、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族が希望するかかりつけ医にて受診できるようにしている。 家族が同行できない場合は、職員が同行して受診できるように支援している。	
			(外部評価) 協力医は、2週間に1度往診してくださっている。訪問歯科は、法人内の事業所に2週間に1度来てくれるようになっており、系列の3グループホームと一緒に、定期健診を受けたり、義歯の具合を診てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員を配置していないが、同法人内の他の事業所の看護師に相談し、協力を得ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が入院した際は、本人及び家族にも不安のないように、病院関係者とも情報交換や相談をして早期の退院ができるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化してきた場合、本人、家族、かかりつけ医と相談し、本人・家族にとってより良い方法をとっていくように努めている。	
			(外部評価) 事業所では、「医療行為が必要になれば事業所で生活することは難しい」ことを、ご家族に説明されており、緊急時には、救急搬送するようになっている。管理者は、利用者の希望があれば、「最期までここで過ごしてもらいたい」と思っておられ、現在、訪問看護との連携等、様々な方面から模索して、事業所で看取りを支援できるよう、検討しているところである。利用者の終末期の過ごし方の希望については、普段の会話の中から聞き取り、介護計画書のご本人の意向欄に記しておられる。 現在は、事業所での看取り支援を希望する方はおられないようだが、今後、希望された場合に備えて、事業所の看取りの指針を示されてはどうだろうか。ご家族や医療機関と協力し合えるような体制作りに向けて、一歩ずつめた取り組みが期待される。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時には、応急手当や初期対応ができるように研修しているが、全ての職員が対応できるようにはなっていないので、今後も訓練をしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練をしており、地域の人にも協力してもらっている。職員も避難訓練を実施することで、災害を想定した避難の方法を身につけられるように努めている。 (外部評価) 消防署立ち会いのもと、夜間の火災を想定した避難訓練を実施されており、利用者、職員、地域の方や法人内の事業所職員も参加された。夜間は職員数が少ないため、管理者は、法人施設の宿直者の協力が重要と考えておられ、地域の方とともに、利用者の見守りをお願いしておられる。又、日頃から法人施設同士で交流して、職員間でも顔見知りになれるように心がけており、いざという時に助け合えるよう取り組まれている。	事業所の所在する地域は、過去に、水害が発生しており、地域の方からは、「台風や水害等、火災以外の訓練も実施した方がいいのでは」と意見をいただいている。ご家族や地域の方達にも避難訓練に参加いただきながら、事業所の安心安全の取り組みについて意見交換されたり、協力し合えるような仕組みを検討されてはどうか。
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 朝の申し送りやスタッフ会などで、利用者一人ひとりの人格を尊重するようにし、他の人にプライバシーに関する話を話さないように話をしている。 (外部評価) 調査訪問時、職員は、居室で利用者の髪にブラシをかけ、身だしなみを整えてから居間にお連れしていた。又、職員は、利用者の隣の席で食事する際には、「失礼します」と、利用者へ声をかけて座っておられた。片方の耳が聞こえにくい利用者の方には、聞こえやすい方から話しかけて大きな声にならないように配慮したり、又、精神状態等もみながら声かけするように心がけておられる。お風呂上りには、脱衣所のいすの上に、新しいタオルを敷き、気持ちよく着替えができるよう配慮されている。月二回、お花屋さんからお花が届くようになっており、調査訪問時には、お花を生けるのが得意な利用者が、カーネーションやかすみ草でフラワーアレンジメントを作っておられた。居間に飾り、職員は、「きれいに生けて下さってありがとうございます」とお礼の気持ちを伝えておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) それぞれの利用者によって、声掛けをし、表情などからも思いや希望を汲み取れるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態やその日の体調を把握して、できるだけ希望に沿えるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服などもご自分で選んでもらったり、一緒に選んだりして、その人らしいおしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事はできたものを運んでもらっているが、月に一回の手作りでは、一緒に切ったり、むいたりしてもらっている。畑でできた野菜も一緒に取りに行ったり、切ったりして準備も手伝ってもらっている。 (外部評価) 食事は、法人の厨房から届くようになっている。月に1回、食事検討委員会があり、利用者の味付けの好みや献立の提案等ができるようになっている。事業所ではご飯を炊いたり、利用者の状態に応じて、刻んだり、とろみを付けたり、食べやすいように手を加えておられる。菜園で野菜を収穫した時には、事業所で手作りしたおかずを追加することもある。誕生日やクリスマス、敬老会等、行事時には配食を止めて、利用者の希望や季節感のあるメニューで、利用者手作りされている。週1回は、おやつを手作りしておられ、秋には、いも掘りをしてからおやつ作りを楽しまれた。調査訪問時には、職員の提案で、炊飯器でバナナケーキを作っておられた。食事中は、テレビを消して懐メロを流しておられ、利用者は、口ずさみながら食事をされていた。目の見えにくい利用者には、「お味噌汁が少し残ってますよ」「ごぼうですよ」と、職員が案内しながら介助されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量や水分量などを記録し、バランス良く栄養が摂れるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、その人に応じた口腔ケアをしてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の状態を把握し、それぞれに合わせた声掛けやトイレ誘導をしている。 失敗が少なくなるように時間を見計らったトイレ誘導をしたり、紙パンツを減らせるように支援している。	
			(外部評価) 職員は、利用者がトイレに行きたくないと、「そわそわして落ち着きがなくなる」等、それぞれのサインを見逃さず、誘導をするように心がけておられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの排便状態を把握し、飲食物や運動なども考えて取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴できる体制をとっており、その日の希望を聞いて入っていただいている。ご夫婦の方は一緒に入っていただくこともある。	
			(外部評価) 入浴を嫌がる男性利用者に、同性職員が介助に入ることを試みられて、安心して入浴することにつながったことがあった。利用者は、「本当は前からお風呂は好きなんよ」と、話してくださったようだ。又、仲の良い利用者同士で入ると、会話が弾んで毎回、楽しんで入浴されるようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況に応じて部屋で休んでもらったり、夜も電気をつけたままにしたり、ラジオを聴いてもらったり、その人に合わせて良く眠れる方法を支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの利用者の薬の目的、副作用、用法、用量について情報を共有し、それぞれに合わせた支援の方法をとっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの能力に応じてできる仕事をしてもらったり、楽しみ事や気分転換等の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) それぞれの体調や希望に沿って出掛けられるように努めている。また、遠くへの外出時は家族や地域の人たちに協力してもらいながら出掛けられるよう支援している。	
			(外部評価) 年1回、クリスマス会と忘年会を兼ねて、大きな会場を借りて食事会を行なっておられる。長時間になると帰りたくなる利用者もあるが、毛布を用意しておき、横になれるよう支援されたり、皆より少し早めに帰る等して工夫や配慮をしながら、全員で出かけられるよう取り組まれている。お花のお好きな利用者の方が多く、菖蒲、藤等、季節の花の鑑賞にも、年間を通して度々出かけておられる。今年は、地域の方に教えていただいた、西条市民の森の珍しい品種の皇帝ダリアをドライブがてら見に行かれた。外出を予定している日に、ご家族が来られた際には、「一緒にどうですか?」とお誘いして一緒に外出を楽しまれることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) それぞれの希望や能力に応じて所持してもらったり、買い物で使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) その人に応じて電話をしたり、手紙を出したり、届いたものを読んであげたりして支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用の空間では、ゆったりと過ごせるようにし、金魚や観葉植物などを置き、季節の花なども飾るようにしている。</p> <p>(外部評価) 玄関には、藤棚見学の際に撮った集合写真を飾っておられた。中庭で洗濯物を干したり、取り込んだ洗濯物を畳スペースでみんなでたたんだりされている。居間には、ご家族からいただいたピアノが置かれてあり、得意な曲を弾いてくださる利用者もいる。ご家族からプレゼントされた観葉植物を居間のテーブルに飾って、楽しみに眺めている利用者もおられる。金魚や亀を水槽に飼っておられ、利用者もえさをやる等して、大切に育てておられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間の中で、椅子やソファを置いたり、ふと独りになれたりする居場所を作っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室には、家族の写真を飾ったり、以前使われていたタンスや椅子などを持って来てもらって居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) ご夫婦で入居されている方は、2部屋を合わせてレイアウトされており、こたつを置いて、一緒にテレビを見たりして過ごされている。お若いころ食堂を経営していた利用者は、当時のお店のメニューをご自分が書いて貼っておられた。信心深い方は、タンスの上のスペースに神棚を作り、お酒やお水、ご飯を供えておられる。又、ご主人の遺影にお酒を供える方もいる。入居前に住んでいた場所に思いを馳せて詠んだ俳句を、短冊に書いて掛けている方もあった。洋服をたくさんお持ちのお洒落な利用者は、ハンガーに洋服を掛けておられ、毎日ご自分で選んで着替えをされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 間違え易い部屋やトイレにも名前を書いてわかりやすいようにしたり、移動するスペースも一人でも動けるように広いスペースをとるように努めている。</p>	